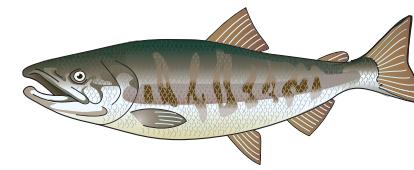




サケ



サケは、よく食用とされる身近な魚です。成長するに従って、すむ場所をかえる性質があります。

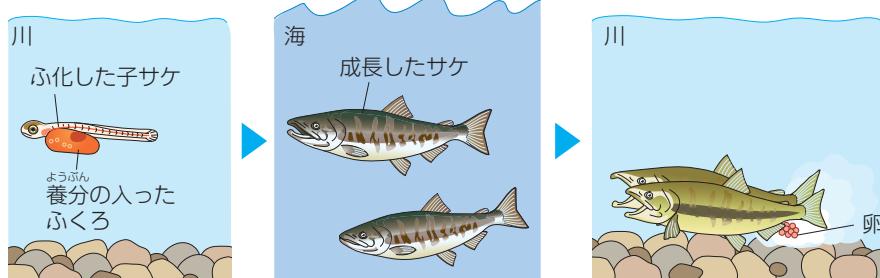


成長のようす

サケの卵は、(1)ごろに(2)に産みつけられます。(3)になると卵が(4)し、子サケは(5)でしばらく成長します。

そのあとサケは川を下り、(6)で生活します。数年間海で成長し、(7)になると(8)のために自分が生まれた川にもどります。

春



川に上り(9)を終えたサケは、おすもめすもやがて死にます。

サケのように、環境の変化や成長段階によってすむ場所をかえる魚を(10)とよびます。

食べ物とすみか

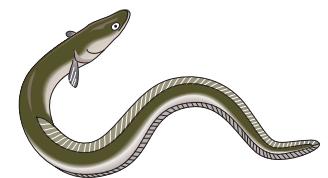
(11)したばかりの子サケは、1~2ヶ月間ほど何も食べず、(12)を使って成長します。腹の養分を使い切ると、水の中の(13)などを食べるようになります。

成魚になったサケは、(14)や(15)などを食べます。

ウナギ

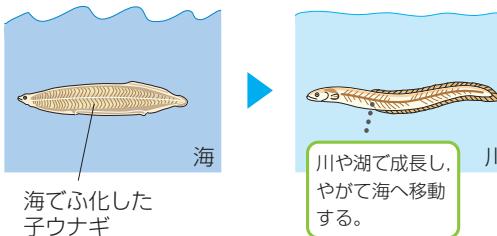


ウナギは、よく食用とされる身近な魚です。成長するに従ってすむ場所をかえる(16)です。

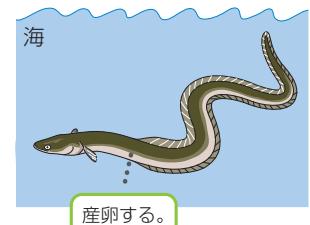


ウナギの卵は、夏のはじめごろに南の海で産みつけられます。(17)した子ウナギは日本へ移動し、冬から春に日本の(18)に着きます。その後5~10年ほど(19)や(20)で成長します。冬になると川の深い所でじっとして過ごし、(21)の時期をむかえた秋に川を下って南の海に移動し、産卵します。

夏



数年後の秋

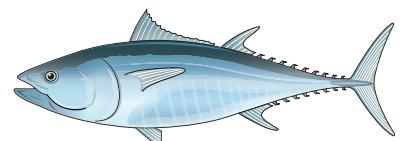


マグロ



マグロは、よく食用とされる身近な(22)です。水温の変化によって広い範囲で海を移動する(23)です。

マグロの成魚のからだは大きく、種類によっては体長が数mになるものもあります。(24)やイカなどの(25)を食べます。



+プラスワン

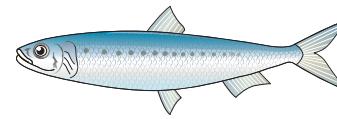
ふつうの魚は、えらぶたを動かしてえらを開けたり閉じたりして呼吸しますが、マグロやカツオはえらぶた自分で動かすことができないため、口を開けて泳ぐことでえらに水を通して呼吸します。そのため、マグロやカツオは常に泳いでないと死んでしまいます。

イワシ

★★★

イワシは、よく食用とされる身近な(26)です。群れをなして海の広いはん囲を移動する(27)です。

イワシの成魚はおもに(28)を食べます。



+プラスワン

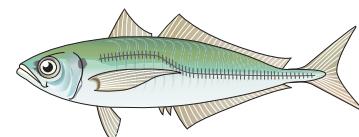
イワシは、漁によって日本の近くの海でもたくさんとれていますが、近年とれる量が少なくなっています。

アジ

★★★

アジは、よく食用とされる身近な(29)です。同じ種類のアジでも、海の広いはん囲を移動する(30)場合と、あまり広いはん囲を移動しない(31)場合があります。

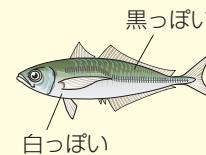
アジの成魚は(32)やほかの小さな魚、甲かく類などの(33)を食べます。



+プラスワン

アジは、回遊するものと回遊しないものでからだの色がちがいます。回遊するものは、からだの上側が黒っぽくて鳥などに見つかりにくく、からだの下側が白っぽくてほかの魚に見つかりにくくなっています。回遊しないものは全体に黄色っぽい色をしています。

回遊するもの



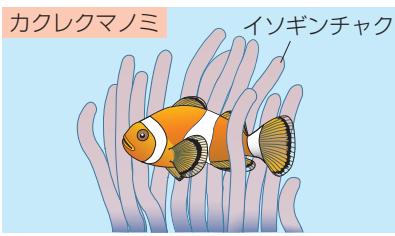
回遊しないもの



クマノミ

★★★

クマノミのなまは、(34)、サンゴしょの広がっている海にすむ(35)です。観賞用に飼育されることもあります。



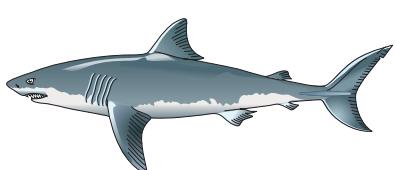
+プラスワン

クマノミは、イソギンチャクと助け合って生きています。ふつう、イソギンチャクは毒をもちます。しかしクマノミはその毒でまひしないため、イソギンチャクのからだにかくれ、ほかの魚などから身を守ることができます。そのかわりに、クマノミはイソギンチャクのえさとなる魚や貝を運んでくる場合があります。

サメ

★★★

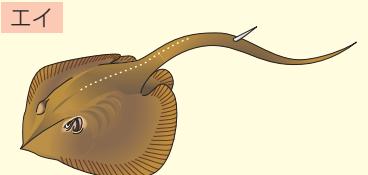
サメは、ほとんどの種類が海にすみます。(36)などを食べるものや、(37)を食べるものなど、いろいろな種類がいます。また、海の広いはん囲を移動する(38)ものや、あまり広いはん囲を移動しない(39)ものがいます。



+プラスワン

サメは、からだの骨がやわらかい骨でできています。同じようにやわらかい骨でできているものに、エイがいます。

サメやエイの多くは、体内受精を行います。



エイ

サメは、クジラやシャチなどのなかまだとかんちがいされることもありますが、魚類です。クジラやシャチはサメにすがたが似ていますがほ乳類なので、入試問題で出てきたときにまちがえないように、しっかり覚えておくのですぞ。